

---

# ブルドーザー

朝比奈キョータロー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ブルドーザー

### 【Nコード】

N1626K

### 【作者名】

朝比奈キョータロー

### 【あらすじ】

ヒマな高校生2人組が港をぶらついてるとき、ある遊びを思いついた。それは危険な遊びであった。

いつものように帰宅部の俺とたかしは港を何をするともなくうろついていた。

帰宅部つつつてもうちの高校はクラブ必修、つてわけで伝統芸能研究会と言う名の、実際には活動してない帰宅部に入っていた。で、港をぶらついてるとたかしが海と反対の方向を指差した。

「石炭じゃね？」

たかしの指差した方向に、確かに石炭が山のように積んである。

「あれ、火つけたら燃えんのかね」と俺が言うとたかしのやつ、何やら肩にかけたかばんから何か取り出した。爆竹である。

「へっ、これ、あの山に突っ込んで爆発させたら石炭に火がつくんじゃないの？」と、たかしは山の方へ近づいて行った。そして、爆竹の束を石炭に突っ込み、火を付けた。

3秒もたたないうち、爆竹は「パンパンパン！」と破裂音を鳴らした。

「おもしれー。俺もやる」と俺はたかしに爆竹を分けてもらい石炭の山で爆竹を炸裂させた。

「あは、こりゃいいね。でも石炭燃えないねえ」ってたかしが言うんで俺、「爆竹まとめて全部入れちゃえばいいんじゃないの」とアドバイスしてやった。たかしは俺の貴重なアドバイスを実行しようと爆竹をセッティングすると、「ガーツ」と轟音が後ろから聞こえたので思わず振り向いた。

ブルドーザーがこちらに向かって来てる！それもシャベル、と言うのか前に付いてる腕みたいなのを振り上げて。その姿はおれに威嚇するアメリカザリガニを連想させた。

運転手であるおっさんは「おめえらどこの学校だー！」と怒り狂っている。

俺達は一目散に逃げようとした。その時である。たかしが仕掛けた爆竹がすごい勢いで破裂し、その火力で石炭に火が着いてまたたく間に石炭の山が大炎上してしまった。ブルドーザーは何を血迷ったか、そこに突入してしまった。そして石炭の山、「どかがかーん」と大爆発してしまった。

「おっさん助けなきゃ」と俺達は山に近づこうとしたが熱くて近寄れない。

と、思ったら火の中から二足歩行のロボットのようものが現れた。俺の推測ではブルドーザーが危機に際し変形、ロボットになってしまったようだ。

「おめえらぶつ殺す！」操縦席のおっさんは鬼の形相、俺達が逃げ出したのは言うまでもない。

（おわり）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1626k/>

---

ブルドーザー

2010年10月18日13時02分発行